

新しい図書館ができるまで ～施設計画の視点から～

【講師】 寺田 芳朗 氏 (株式会社寺田大塚小林計画同人代表取締役)

【日時】 2018年2月4日(日)

13時30分～16時30分(受付13時から)

【会場】 静岡県立中央図書館・会議室(静岡市駿河区谷田53-1)

【講師プロフィール】

1978年横浜国立大学院工学研究科修士課程修了後、設計事務所勤務を経て1999年株式会社寺田大塚小林計画同人を設立。

神奈川県大磯町立図書館、福岡県苅田町立図書館、佐賀県伊万里市民図書館、福島県南相馬市立中央図書館などが、日本図書館協会建築賞受賞。また、神奈川県立図書館再編整備検討委員、同新図書館整備ワーキング助言者。横浜市や藤沢市でこれからの図書館検討会専門委員に参画。

【講演会にあたって】

東静岡への全面移転が決まり、いよいよ本格的になってきた県立中央図書館の新館建設。現在の施設は閲覧室の床のひび割れにより臨時休館、県民に様々な弊害を及ぼしており、建物そのものの重要性について改めて考える機会となりました。

よりよいわたしたちの県立図書館をつくるにはどうしたらよいでしょう。

半世紀に一度の転換期を迎えた今、未来を見据えたこれからの県立図書館について考えていきたいと思えます。

今回の講演では、建築家として多くの図書館に関わられてきた寺田芳朗氏に「新しい図書館ができるまで～施設計画の視点から～」と題してお話していただきます。

寺田氏の話をついて、「こんな図書館にしたい!」という気持ちをどのようにカタチにしていけばよいか一緒に考えましょう。

【会費】 500円

【申込不要】 直接会場へお越し下さい。

【問い合わせ】 080-6910-9434

(静岡図書館友の会総務)



【主催】 新たな県立図書館を望む会 静岡図書館友の会

「新しい図書館ができるまで ～施設計画の視点から～」

寺田大塚小林計画同人代表 寺田芳朗

図書館のあり方を、どのように形にあらわすか。

「こと」のデザイン と「もの」のデザイン / 活動 と 場 のデザイン

〇プロフィール：てらだ よしろう / 株式会社 寺田大塚小林計画同人 代表取締役
 日本建築家協会会員[登録建築家] / 日本図書館協会会員
 1978年横浜国大大学院修了、都市設計・建築意匠専攻。大学在学時に故佐藤仁教授に図書館計画の薫陶を受ける。和設計事務所・山手総合計画研究所在籍中に設計/監理を担当した図書館は、神奈川県大磯町立、福岡県苅田町立、佐賀県伊万里市民、沖縄県名護市立、滋賀県愛知川町立、同人設立後、埼玉県小川町立、千葉県君津市立中央、長崎県たらみ図書館、福島県南相馬市立中央図書館、学校図書館を中心にした都立文庫夢学園校舎、大分県竹田市図書館基本構想、多摩市図書館基本構想、現在は基本計画。1992年1月21日静岡市の図書館を考える会の学習会に呼んでいただき、お話ししました。
 ※ ホームページで開館後の図書館情景を公開。 URL: <http://www.geocities.jp/tokdojin>

<ノート・メモ>

1. 「図書館とはなにか」ということを、いつも、はじめに確かめてみる。

※ 図書館はなぜ造られたのか。他方、個人は、なぜ学ぶのか、どう学び続けるのか。

- ① 図書館のめざすもの。
 - ・ 背景にある教育基本法の読み方、社会教育政策としての矜持。
 - ・ 「アメリカ社会に役立つ図書館の12箇条」
 - ② 社会システム・社会インフラとしての図書館。
 - ・ 図書館はひとつの建築のことではない。サービスのしくみ。「成長する活動と場のしくみ」。
 - ・ 「明日の田園都市」のハワードが都市を語る時、電力初ネットワークや図書館システムを例示。
 - ③ 戦後の図書館政策の3原則、図書館の3要素。
 - ・ 貸し出し利用 / こども奉仕 / 全域平等奉仕、の重視。
 - ・ 本（資料・情報） / 人（司書の専門性） / 施設（機能性と成長性）。
 - ・ サービス指標：登録率、町民一人一年貸出密度、リスト総数、レファレンス総数、資料費、
 - ・ 「図書館システム」の成長への視点と意志が欠けると図書館ではなくなる。
- ※ 図書館建築は、図書館の成長の足を引っ張ることが無いように造られているか？ 造れるのか？
- ④ 図書館がカフェになる、賑わいを生むことを求める人々も居る、時代について。
 - ・ 専門性 / 市民性 / ひろば性 / 地域性。そして改めて、資料と司書と施設の専門性について。
 - ・ 図書館の空間（資料と人の向き合う場）の質は、イオンやスターバックスと同質でよいのか？
 - ・ 市民が専門性を認めて共感する「開架室の資料世界構築と世界表現」に向かっているか。
 - ・ ……ブラウジングの魅力とはなにか。……シーケンス / 物語性のある構成とは、

左は、建築学科の学生が、設計演習で初めて図書館を学ぶときに提供のお話です。

- ・ 図書館は建築のことではない。
- ・ 図書館は成長変化しつづける。
- ・ 図書館員と向き合う事の大切をつたえます。

社会システムデザインとしての図書館計画と、図書館施設計画。今日はさらっと通過します。

左では、開架室資料配架、資料世界の構造化や表現が大切だと例示して、建築空間造形の暴走や独りよがりや戒めます。設計も社会的営為だということです。

※ 大切な時間的要素、ブラウジング と シーケンス

……彫刻ではなくて音楽や物語のように。(ゲート)ブラウジングが豊かになる環境のしくみ、しつらえ。環境のつながり、みちゆき、資料世界のおくゆき、

- ・ 配架について図書館員と設計者が共感して開架室をしつらえる。
- ・ 日図協研修会でお話した4図書館の開架の資料をご覧ください。

2. 図書館システムのセンターとしての明快で詳細な仕様書「建築計画書」は？

- ① 建設/建築計画の前の、大切な県立図書館の政策「プログラム」に着目する。
 - ・ 設計の前に、「図書館基本構想や図書館基本計画」というプログラムがある。
 - ・ 県民と図書館と県政の、県と設計者と建設会社の、達成すべき目標 / 保証書 / 契約書。
- ② 県内自治体の図書館の成熟度により、県立のあり方も違う。段階変化してゆく。
 - ・ いちばん賑やかで魅力的な公立図書館型ショールーム。(戦後CIE型、神奈川、大分、千葉は松戸を築めるのか)
 - ・ 県下全域図書館の人と資料の連携マネジメント。(米国L.S.型、県探教員、広域行政、焦点は非正規専門職統合か)
 - ・ 県下自治体の公共図書館政策の発展意欲をそがないよう。(長崎県と長崎市、滋賀八日市市と周辺自治体、)
- ③ 県内自治体や県民一人ひとりの利益/豊かさにどうつながるか、を解説する。

<計画の定石/プランナーの構え>

- ① 現状をつぶさに見て目標を設定。
佐賀県での研究集会で、知事談
 - ② 過去先例を踏まえ同じ轍をさける。
他県事例を分析。山梨高知石川
 - ③ イメージキャッチする言葉に酔わない。
説明しきれない言葉を共有する。
- 構想や計画冊子の言葉と、成果現実の乖離がしばしば起きることに留意して、県民の信頼に応えたい。

3. 近年の図書館施設づくりの事例から、図書館建築への視点をいくつか紹介する。

- ① プロポーザル(コンペ)で提案したこと。具体化したこと。追跡していること。
 - ・ 提案すべきことを確かめて、プレゼンテーション。設計はコミュニケーションのひとつの形。
 - ② 設計者選定競技の成否は、審査団構成(選定の資質/物差し)にかかっている。
 - ・ 提案の絵を見て提案者の資質を図るには、それを超える知見が要る。図書館員の知見が要る。
 - ③ 「活動と場のしつらえ」について。
 - ・ 設計図提案図を見るとき、そこに図書館員が現場で見た利用と奉仕の営為を重ねて判定する。
- 設計者は良き助言を。図書館の場の計画としつらえの最終的判断/承諾は、図書館員が受け持たなければならない。

3、①については、県立大型施設に関係してきそうな項目を次頁に書き出してみます。

竣工の様子、利用の情景をスライドでお見せします。

4. ご質問をうけて、お話をしたいと思えます。